

慣性の法則と、回転体による反重力

タイミングとともに、別ベクトルとして重力を加える法則

Masaaki Yamaguchi

慣性の法則の慣性力が働くときと同時に、前もって、タイミングを計り、慣性力とともに、逆向きのベクトルとして、慣性力の力と同じエネルギーの重力を生成して、慣性力の影響を無くす。この力を反重力という。慣性力と逆向きのベクトルとして、反重力として、慣性力に加えて、別のベクトルとする。

反重力の本質は、重力のベクトルの違いであり、核エネルギーが特殊相対性理論と一般相対性理論を使って、放射性物質吸収体に、この原理を使い、核エネルギーをリサイクルしている。これを宇宙人は知っていて、UFO にこの原理を使っている。

Higgs 場は、重力であり、周りを反重力が覆っている。一般相対性理論のベクトルの向きを変えた力の装置が、ラムダ・ドライバであり、反重力である。

重力は熱エネルギーである。ベクトルの向きが違ふ。反重力は吸収体である。慣性の法則が働いているときに、これが手に入ったが、離れたになり、重力をベクトルの向きを変えて、同じエネルギーを加えた場合、量子コンピュータが、そのときの差分を使って、反重力が慣性の法則を変えて、宙に浮く UFO にしている。

まとめると、慣性の法則のときに、重力のベクトルを違ふ向きとして、加えると、手に入ったが、離れたになり、これが反重力である。

UFO が現れる前に、ヘリコプターが現れて、そのあとに、UFO が実際に現れる。慣性の法則のしばらくして、反重力として、UFO として、宇宙人が人に教えている。

反重力の生成は、回転体の電磁気力からくるちからであり、ローレンツ力と同じでもあり、機体の内部で生成される力であり、そのために、放射性物質吸収体を結晶石として、このエネルギーからくる放射力を吸収するために、結晶石に反重力の放射線を吸収する。その上に、外部の慣性力を内部の反重力で、手に入ったら、離れたをしている。